

A-10 江戸時代の文化と亀山

対象学年・教科

小学校6年社会科、小学校5年以上図画工作
 中学校社会科：歴史的分野、
 中学校1年国語科、中学校2年美術

亀山市域を描いた浮世絵（画像パネル）〔297×420が13枚〕
 （複製）〔534×381が4枚〕

市内の亀山・関・坂下を描いた浮世絵です。亀山は城、関は本陣、坂下は筆捨山が多く描かれています。浮世絵は、ほとんどが絵師の想像によって描かれたものですが、例えば、明治になってから描かれた「東海名所改正道中記 旅人留女 亀山関 迄壱り半」のように、よく見ると断髪（鬚を切った髪型）の男性が人力車に乗っている姿や洋傘が描かれているなど、その当時の風俗をみることができ、また、当時亀山がどのように認識されていたかを知ることができます。



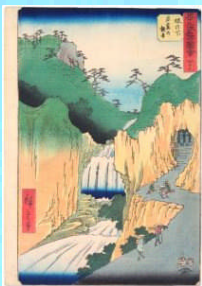
国貞・
「東海道之内 関
（御上洛東海道）」

国貞・
「東海道亀山
（御上洛東海道）」

芳虎・
「東海道坂ノ下
筆捨山（御上
洛東海道）」

初代広重・三代豊国
「双筆五十三次 関
古代鈴鹿之関」

初代広重・
「五十三次名所図会
四十七 亀山風雨
雷鳴」



初代広重・
「五十三次名所図会
四十九 坂の下
岩窟の観音」

国輝・
「末広五十三次
関」

四代豊国・
「書画五拾三駅
伊勢亀山俱不
戴天」

三代広重・
「東海名所改正道
中記五十 旅人
留女 亀山関迄
壱り半」

北斎・
「亀山 関へ
壱里半」

浮世絵（画像パネルの続き）



初代広重・
「東海道五十三次内
亀山 雪晴」



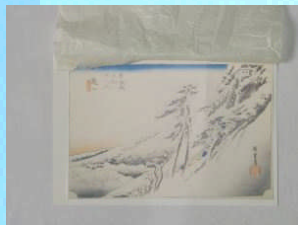
貞虎・
「昔模様亀山染」



初代広重・
「忠孝仇討図繪
亀山咄」

浮世絵（複製）

[534×381]



初代広重・
「東海道五十三次内
亀山 雪晴」



歌川広重（初代）・
「東海道五十三次内
関 本陣早立」



歌川広重（初代）・
「東海道五十三次内
阪之下 筆捨嶺」



葛飾北斎・
「諸国滝廻り」
坂ノ下清滝観音